絵馬の由来

古代人にとって馬は農耕・狩猟・軍事において必要欠くことのできない大切なもので、その保有数が一族の富と力を象徴するものでした。次第に馬は信仰の対象になり、神の乗り物として崇められるようになったといいます。

生馬を祈願や感謝の進物として神へ献納するようになり、それができない者は、木で造った木馬を献上し、それもできない者は馬を描いて生馬の代りに献上したのが絵馬の始まりとされ、さかのぼること1300年前の奈良時代頃からと言われています。

鎌倉時代以降になると馬以外のものが描かれるようになり、江戸時代になると庶民の願望を託した祈願絵馬が流行し、安産・育児・商売繁盛・厄よけ・病気平癒などの悩みや願いをさまざまな画材で描き寺社に奉納されます。

絵馬の形式は屋根形（吊懸形式）・方形・縦長・横長・扇形などさまざまです。絵馬は大絵馬と小絵馬に分けられ、大絵馬は武士・豪農豪商、また集団で奉納し、専門絵師が描くことが多くみられます。小絵馬は個人の奉納が多く、祈願者の悩みや祈りを暗示的に表現をしてあるので、絵馬を見るのではなく、絵の奥に秘めた心を「読む」という感覚になります。